

第3章 平成29年度事業計画

目次

1	概要	62
2	活動計画	62
3	会議・会合	64
4	粉体工業展	64
5	常置委員会	65
6	分科会	70
7	粉体工業技術センター	76
8	技術情報交流懇話会	78
9	共催・協賛及び後援行事	78
10	刊行物	79

第3章 平成29年度事業計画

自 平成29年4月1日
至 平成30年3月31日

1. 概要

わが国の平成29年1～3月期の実質GDPはプラスを維持しており、29年度も企業の設備投資はプラス基調で推移すると見込まれています。しかし、原油価格など資源価格の上昇の影響で一部資材関連の価格上昇という懸念が出てきています。加えて、米国トランプ政権の政策動向の不透明さもあり、通商問題に関連したリスクへの懸念も払拭されない状況にあります。一方、雇用情勢には明るさがあり、前年度の補正予算の効果も続いているので、企業業績の改善傾向は持続し、設備投資も緩やかに伸びていくものと期待されます。

このような状況下、当協会では昨年「平成28～30年度中期運営計画」を策定、理事会にて承認されたことを受けて、協会の3本柱というべき、「分科会活動」、「委員会・部門活動」、「展示会事業」をターゲットに以下の活動目標を策定しました。

1. 分科会活動の方向性の明確化
2. 委員会の活動の活性化と費用の有効活用
3. 展示会事業の2020年問題への取り組み
4. 分科会運営委員会の活動強化とナノ粒子利用技術委員会活動の増強

本年度は、これらの目標を基本にした活動を行い、当協会の目的である「粉体に関する鉱工業技術開発及び普及を通じて粉体関連工業の発展を図り、もってわが国経済の健全な発展と国民生活の向上に寄与する」ことを目指します。

会員各位のご支援とご協力をお願い申し上げます。

2. 活動計画

2-1. 調査・研究事業(分科会、分科会運営、技術(技術用語検討・ナノ粒子利用))

分科会は全般的目標として、分科会運営委員会を中心に新技術へのアプローチと分科会間の交流や情報交換の活性化を目指します。さらには、近年手薄になりがちだった単位操作関連技術に改めて目を向けることにも取り組んでいきます。

一方、それぞれの分科会は、作成した技術ロードマップに基づき、技術情報の発信、技術の普及、技術の高度化の活動を行います。昨年度末をもって、静電気利用技術分科会が技術分野の環境変化により、廃止となりましたが、静電気利用技術は重要技術であり、残った18分科会の活動テーマに関連する部分も多くあるので、それらは関連する分科会の活動の中で継承します。そして、今年度には新しい分科会として粉体シミュレーション技術利用分科会を発足させます。この分科会は、粉体シミュレーション技術を駆使して粉体機器やシステムの設計、粉体の動きの解析・可視化による粉体機器やシステムの開発・改良を行うことをテーマとして活動する予定です。

技術委員会関連では、傘下の技術用語検討委員会が、粉体用語集「粉体用語ポケットブック」の発行を目指しています。同じく技術委員会傘下のナノ粒子利用技術委員会は、ナノ粒子関連技術に関連する調査研究を行うと共に、その活動成果を発表する場として粉体工業展大阪2017にて「ナノ粒子利用のための実用プロセス技術」の講演会の開催を計画しています。

2-2. 広報・普及事業(総務、「粉体技術」誌編集、総覧発行、産学官連携)

(1) シンポジウム・フォーラムなどの開催

粉じん爆発委員会は粉体工業展大阪2017の併催行事として「粉じん爆発情報セミナー」を開催します。産学技術交流推進部門は粉体工業展大阪2017の同時開催行事として、大学・研究機関側のシーズと企業側のニーズの出会いの場を提供する「APPIE 産学官連携フェア」を開催します。これらを始めとして、分科会、委員会は活動成果提供の一環としてセミナー、フォーラム、講演会の開催を計画しています。加えて、ホームページ、メールマガジンおよび月刊誌「粉体技術」を通じ、粉体技術情報や協会活動情報の発信にも注力していきます。

(2) 粉体技術交流・相談事業

粉体工業展大阪2017では、「技術相談コーナー」を開設して、大学教授や公的研究機関の研究者が企業からの技術相談に応じるほか、産学技術交流推進門は常時ホームページ上で協会内外からの粉体技術に関する相談を受け、企業からの問合せを大学や研究機関へ橋渡しする役目を果たしていきます。

2-3. 人材育成・教育事業(教育部門)

教育部門を中心に、粉体技術者の継続的、専門的生涯教育や人材育成の一貫として、平成 29 年度も以下の講座、セミナーの開催を予定しています。

・粉体入門セミナー(Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ)	3回
・粉体エンジニア早期養成講座(9講座)	9回
・粉体技術専門講座	2回
・粉じん爆発・火災安全研修【初級】	1回

2-4. 規格・標準化事業(標準粉体、規格、粉じん爆発)

標準粉体委員会は、現在 JIS Z 8900-1 に記載されている粒子径測定装置検定用粒子(MBP粒子)を認証標準物質(CRM)として登録すべく作業を行います。CRM に登録されると、世界的にもあまり例のない粒子径分布を規定した標準物質となり、極めて挑戦的な作業です。また、国内の有力計測器取扱い企業が参加する粒子径分布測定ラウンドロビン試験も計画しています

規格委員会は、粉体技術に必要とされる JIS 原案の作成、ISO の新規策定・改正に伴う JIS 原案の作成、及び既定 JIS の見直し、さらに協会規格原案の作成および見直しを行い、規格化、標準化事業の成果の普及・広報に努めます。規格委員会傘下の JIS 原案作成委員会 1～3 では、「JIS Z 8828 粒子径解析—動的光散乱法の改正」ほか 2 件の JIS 作成を行います。また、規格委員会傘下の粒子特性評価小委員会は経済産業省(三菱総合研究所経由)の受託事業として「粒子特性評価に関する国際標準化」関連の作業を、集じん技術小委員会が「ろ過集じん性能に関する国際標準化」関連の作業を行います。

2-5. 海外交流事業(海外交流)

例年のように APPIE annual REPORT 2016 を英文ホームページに掲載します。また、粉体工業展大阪2017において「第7回海外情報セミナー」を開催する予定です。

国外の展示会では、POWTECH ドイツ・ニュルンベルク(2017年9月)に協会ブース設置を、IPB 中国・上海(2017年10月)では協会ブースと Japanese Pavilion の設置を計画しています。

2-6. 展示会事業(粉体工業展、東京粉工展、大阪粉工展)

粉体工業展大阪2017を、10月11日(水)～10月13日(金)、インテックス大阪 4・5 館にて開催します。200社・団体、620小間の開催規模で目下出展募集中です。この展示会では、最新情報フォーラム、各種セミナー、製品技術説明会、技術相談、学生交流会など多くの併催行事の開催を計画しています。

また、2020年のオリンピック・イヤーの東京ビッグサイト使用可否が不透明な状況にあり、この問題に向けて開催会場や他展示会の動向などの情報収集に努めます。

2-7. 標準粉体製造頒布事業(製造事業部門)

標準粉体委員会で進められている MBP 粒子の認証標準物質化作業に連動して、認証結果の HP へ掲載を予定しています。また、既存の標準粉体については製品安全性データシート(SDS)や有害性・危険表示ラベルやホームページに記載してある記事のメンテナンス、アップデートを行い、製品への安心感と信頼感を向上させます。

2-8. 会員共益事業(技術情報交流懇話会、推薦審査、人材育成)

以下の活動を通じて、会員相互の親睦と技術情報交流、人脈形成、親睦などの促進を図ります。

- ・技術情報交流懇話会・・・火(4回)、水(3回)、木(4回)、金(3回)曜会、合計14回
- ・推薦審査委員会・・・例年通り、分科会功労賞、委員会・部門功労賞、協会賞、粉体工業展賞、粉体工業功績者表彰の審査・推薦 および個人会員・会友の入会審査を行います。
- ・人材育成委員会・・・「若手のつどい」を開催します。また、粉体工業展大阪2017開催に併せ、「学生ツアー・交流会」の企画・運営を行います。

3. 会議・会合

3.1 第36回定時総会

開催日時：平成29年5月23日(火) 13:00

場 所：東京/東京ガーデンパレス

次 第：*総会

*表彰式

協会賞授与、粉体工業展賞授与、粉体工業功績者表彰

*特別講演

*懇親会

3.2 理事会

	開催日時	開催場所
第1回	平成29年5月11日(木) 15:00	大阪/ANAクラウンプラザホテル大阪
第2回	平成29年8月4日(金) 15:00	東京/東京ガーデンパレス
第3回	平成29年11月14日(火) 12:30	京都/ホテルグランヴィア京都
第4回	平成30年3月14日(水) 12:30	大阪/ANAクラウンプラザホテル大阪

3.3 諮問会議

	開催日時	開催場所
第1回	平成29年4月11日(火) 14:00	東京/東京ガーデンパレス
第2回	平成29年7月11日(火) 14:00	東京/東京ガーデンパレス
第3回	平成29年10月18日(水) 14:00	名古屋/名鉄ニューグランドホテル
第4回	平成30年3月1日(木) 14:00	大阪/ANAクラウンプラザホテル大阪

3.4 定例会合

	開催日時	開催場所
秋期定例会合	平成29年11月14日(火) 15:00	京都/ホテルグランヴィア京都

3.5 分科会連絡会議および委員会・部門連絡会議

分科会連絡会議	平成30年1月19日(金) 13:00	名古屋/名鉄グランドホテル
委員会・部門連絡会議	平成30年1月20日(土) 9:30	名古屋/名鉄グランドホテル

4. 粉体工業展

4.1 粉体工業展大阪2017の開催

来る10月11日(水)から13日(金)までの3日間、粉体工業展大阪2017が開催される。大阪開催として、12回目を迎える今回は、特別講演をはじめ、「こなもんことはじめ」「粉のネットワーク(名刺交換会)」など、関西地域ならではの併催イベントを企画し、産学交流イベント併催を中心に、さらに魅力的な展示会づくりを目指して綿密な準備を進めつつある。

◇開催概要

会 期:2017年10月11日(水)～13日(金)

会 場:インテックス大阪(南港) 4・5号館

テーマ:粉づくり・ものづくり・夢づくり-粉の技術-

◇出展対象技術・製品

製造・プロセス機器ゾーン

粉砕装置／ふるい分け装置／分級装置／ろ過装置／混合装置／混練装置／造粒装置／コーティング装置
／乾燥装置／供給装置／輸送装置／分散装置／集じん装置／成形装置／表面改質装置／包装装置／
焼成装置 など

計装・測定、ラボ機器ゾーン

計測機器／計装機器／ラボ機器／制御システム／FA装置 など

材料・エンジニアリング・情報ゾーン

新素材／フィルター材／スクリーン／機能性粉体／エンジニアリング／受託加工サービス／出版／コンピュータシステム／ソフトウェア／助材 など

資源・環境・エネルギー

回収システム／リサイクルシステム／浄化システム／分別システム／清澄化システム など

◇今回の特色

●最新情報フォーラム／粉体機器ガイダンス

粒子加工/計装測定/混合・成形/粉砕をテーマにした講演と機器説明

●こなもんことはじめ

「粉体の概要と乾燥状態での取扱い基礎」、「液中での粒子の取扱い基礎」、「単位操作の基礎」

●シミュレーションセミナー

●粉じん爆発情報セミナー

粉じん爆発の危険性評価、予防などをテーマにしたセミナー

●ナノ粒子利用技術セミナー

ナノ粒子の利用技術をテーマにしたセミナー

●海外情報セミナー

●製品技術説明会

●特別展示(粉の広場)

粉体シミュレーション出展社プレゼン、未来材料ゾーン出展社プレゼン、アカデミックコーナー、分科会展示コーナー、標準粉体展示コーナー、技術相談コーナーをはじめ、多彩なイベントを企画している。

●粉のネットワーク【名刺交換会】

●学生ツアー&交流会

◇同時開催

●粉体工学会秋期研究発表会

●APPIE 産学官連携フェア 2017

5. 常置委員会

5.1 総務委員会 (赤堀肇紀委員長、松島徹、六車嘉貢各副委員長)

委員会開催予定:3回

- 1) APPIEメールマガジンにつき、問題点を把握し、改善提案を行う。(作成・発信は協会総務が担当)
- 2) 協会ホームページにつき、問題点を把握し、改善提案を行う。(更新・メンテナンス・改善作業は協会総務が担当)
- 3) 「事業案内2017年度版」(日本語版)について、内容を確認し発行する。(作成・印刷は協会総務が担当)
- 4) 「粉体工業展大阪2017」出展の非会員会社に対し入会勧誘を行う。
- 5) 協会活性化のために前年度実施した法人会員向けアンケートの回収結果の分析を行い、活性化に向けた取り組みを討議する。
- 6) 5)の取組みを踏まえ、分科会、教育部門開催のセミナーなどに出席された非会員会社に対する入会勧誘などを検討する。
- 7) 過去3年間の入退会リストを作成し、入会理由・退会理由を把握し、5)の取組みと合わせて増強と退会防止について討議する。

5.2 技術委員会 (牧野尚夫委員長)

委員会は必要に応じて開催する。

- 1) 技術委員会の体制;委員長:牧野尚夫(副会長/技術担当、電中研)

特別委員:増田弘昭(顧問)、山田幸良(会長)、事務局:豊見昭

- 2) 業務所掌:委員会、分科会に共通する技術的問題への対応

3) 現在、「技術委員会」の傘下に「技術用語検討委員会」、「ナノ粒子安全性検討委員会」及び「ナノ粒子利用技術委員会」の3委員会がある。但し、「ナノ粒子安全性検討委員会」は[ナノ粒子安全性ハンドブック]発刊後のアフターケアが終了したことから、平成28年度より[リスク面]における技術情報のウォッチングは行うもの

の、その情報発信は「ナノ粒子利用技術委員会」で継続する。

静電気利用技術分科会が本年度末にて廃止される事に対して、関連技術分野の保全および今後の体制作りのための対応策を引き続き検討する。

4) 「技術用語検討委員会」は、粉体用語集「粉体用語ポケットブック」の編纂に時間を要しており、平成29年度発刊予定である。(詳細は、「技術用語委員会」より報告)

5) 「ナノ粒子利用技術委員会」は、コアメンバーによる検討会(2回;4/6、10/13)、本委員会(2回;8/9、2/2)を開催する。(詳細は、「ナノ粒子利用技術委員会」より報告)

5.2.1 技術用語検討委員会 (牧野尚夫委員長)

委員会が必要に応じて開催する。

1)修正督促および原稿回収;~H29,3月末

委員による再査読:H29,5月末

発行予定期日;H29,9月下旬

2)販売計画;

①法人会員に無料配布(1部):300部

②法人会員へ販売(新入社員や営業マンへ、プレゼント用など):200部

③その他(各種セミナー、展示会などで販売)

④H30年度以降の粉体入門セミナーで無料配布。

5.2.2 ナノ粒子安全性検討委員会 (明星敏彦委員長、遠藤茂寿、近藤郁各副委員長)

小休止とし、委員会は必要に応じ開催する。引き続き明星委員長はナノ粒子利用技術委員会に特別委員として参加する。

5.2.3 ナノ粒子利用技術委員会 (奥山喜久夫委員長、伊ヶ崎文和、福井武久各副委員長)

委員会開催予定:2回、コアメンバーによる検討会開催予定:2回

1) 委員会の委員より、ナノ粒子の応用およびハンドリングに関する情報を収集し、アンケートの結果より重要とされた湿式および乾式の単位操作について、現状と問題点を整理する。情報の収集方法として、内外の該当する展示会、国際会議あるいは講演会などに委員会メンバーを派遣し、委員会として積極的に情報収集を行う。

2) ナノ粒子の利用に関して課題となる単位操作について、専門として取り組んでいる大学の先生および企業研究者による講演を行い、ナノ粒子材料の合成、分散、製品化の現状と問題点を議論し、整理する。

3) 委員会メンバーの「ナノ粒子に関する研究例・利用例」より、ナノ粒子の合成、分散、製品化の例を整理する。

4) 微粒子ナノテクノロジー分科会との連携を検討する。

5.3 「粉体技術」編集委員会 (谷正美委員長、鈴木道隆、加納純也各副委員長)

委員会開催予定:本委員会 4回、小委員会 12回

予定特集号

月号	特集予定	月号	特集予定
4月号	協会を支える分科会活動	10月号	伝統粉状食品
5月号	健康長寿社会の構築	11月号	アジア(インド、タイ、ベトナムなど)
6月号	大気中粒子状物質	12月号	エネルギー化
7月号	火薬&花火	1月号	女性活躍社会
8月号	知財&特許(国際標準化)	2月号	粉体工業展大阪を終えて
9月号	分級・ふるい分け	3月号	磨く、削る、洗う粉(砥粒)

創刊から9年目、原点に立ち返り、情報誌にふさわしい誌面作りを進めていく。粉体技術関連は、極力、最新情報をピックアップするほか、経営層や営業関係者でも読み込める企画も充実させる。これらを年 12 冊の中でバランスよく配分し、真の総合情報誌の姿を追求する。

5.4 推薦審査委員会（加藤文雄委員長、赤堀肇紀副委員長）

委員会開催予定:3回

H28 年度に準じ、年 3 回の会合で、各賞の表彰規定に則って、審査業務を実施していく。

5.5 粉体工業展委員会（山田幸良委員長、村田博、菅原一博各副委員長）

委員会開催予定:必要に応じて開催する。

- 1) 2020 東京オリンピックによる東京ビッグサイトの使用可否の情報収集とその対策を検討する。
- 2) 「国際粉工展東京 2016」の反省等をふまえ、「粉工展大阪 2017」を支援・助言する。
- 3) 粉体工学会との協力体制を強化する。
- 4) 海外交流委員会と共同して、世界の主要粉体工業展の情報収集を図るために委員を派遣する。

5.5.1 東京粉体工業展委員会（村田博委員長、大川原正明、槇野利光各副委員長）

委員会開催予定:5回、正副委員長会議:本会議に合わせ開催

国際粉体工業展東京2018の計画・立案を行う。

- 1) 平成 29,30 年度委員会新委員の選任・委嘱
- 2) 会場・会期については、東京ビッグサイトの仮押さえは 2018 年 11 月 28 日(水)～11 月 30 日(金)となっている。

5.5.2 大阪粉体工業展委員会（菅原一博委員長、加藤文雄、高倉正紀、花川忠己各副委員長）

委員会開催予定:本委員会3回、小委員会(必要に応じて出展促進委員会等を開催する)

「粉体工業展大阪2017」の開催

- 1) 開催日時:2017 年 10 月 11 日(水)～13 日(金) 10:00～17:00(3 日間とも)
- 2) 会場:インテックス大阪 4・5 号館
- 3) 開催テーマ:粉づくり・ものづくり・夢づくり - 粉の技術 -
- 4) 開催規模:200 社/620 小間 (3 月 10 日現在 37 社 155 小間の申込)
- 5) 併催事業:

最新情報フォーラム、粉体機器ガイダンス(①粒子加工、②粉砕、③計装測定、④混合・成形などで検討)、こなもんことはじめ、粉のネットワーク【名刺交換会】、製品技術説明会、未来材料・粉体シミュレーションゾーン出展社プレゼン、学生ツアー&交流会、粉じん爆発情報セミナー、ナノ粒子利用技術セミナー、海外情報セミナー
同時開催:粉体工学会秋期研究発表会・粉体技術セッション、APPIE 産学官連携フェア 2017

5.6 分科会運営委員会（増田弘昭委員長、伊ヶ崎文和、浅井信義、鈴木康夫各副委員長）

委員会開催予定:本委員会4回、ヒアリング1回、小委員会1～2回

- 1) 分科会の体制と運営に関する検討。分科会運営委員会としての職務の確認及び組織の見直し。
- 2) 分科会実行上の課題の検討と、それに伴う分科会各種手続きの見直し、及び対応する運営人材の育成・継承と関連規定の整備。
- 3) 拡大分科会運営委員会及び分科会連絡会議を、協会本部と各分科会および分科会間相互の意志疎通の場、情報交換や情報共有の場として役割を明確化。
- 4) 各分科会と協会本部、各分科会と関連委員会との間のインターフェースの役割をはたす。

5.7 海外交流委員会（松本幹治委員長、浅井信義、横山豊和各副委員長）

委員会開催予定:本委員会2回、小委員会3回

- 1) APPIE annual REPORT や英文ホームページ等で、協会情報を海外へ発信
- 2) 第 7 回海外情報セミナーの開催。「海外進出(活動)において注意すべき項目」(知的財産、PL保険、その他の法規制等)について紹介し、講師は JETRO、特許庁、大学、民間企業の現地駐在員を予定。大阪粉体工業展での開催を検討中。
- 3) POWTECH ドイツ・ニュルンベルク(2017.9.26～28)協会ブース設営を予定。
- 4) POWTECH と現地企業視察ツアーの企画。
- 5) IPB 中国・上海(2017.10.16～18)協会ブース出展及び共同出展 Japanese Pavilion 実施予定。
- 6) APT 台湾(2017.7.30～8.3)協会と学会との連携、粉体技術の PR のためにブース設置(運営は学会)。会長出席。

5.8 人材育成委員会（西村卓朗委員長、浅井信義副委員長）

委員会開催予定:本委員会4回、小委員会1回

- 1) 「若手のつどい」を年4回行う(委員会と同日)
- 2) 粉体工業展大阪2017、学生ツアー・交流会の企画運営を行う。

5.9 標準粉体委員会（森康維委員長、後藤邦彰副委員長）

委員会開催予定:本委員会2回、小委員会2回

認証標準物質(CRM)の設定とラウンドロビン試験を中心とした活動を行うべく委員会を運営する。

1) 認証標準物質(CRM)の登録

- ①対象測定項目:粒子径分布 1~100 μm
- ②認証を受ける標準物質:
現在 APPIE が取扱っている JIS 粒子径分布測定装置検定用粒子(MBP ガラスビーズ)
- ③認証手順:自己宣言
- ④認証機関:(国研)産業技術総合研究所計量標準総合センターの RMinfo に登録

2) 粒子径分布測定装置のラウンドロビン試験

- ①JIS Z 8901 に記載されている試験用粉体1の沈降法粒子径分布測定法を時代に即した測定法(レーザー回折散乱法粒子径分布測定方法他)に置き換えるための基本データを得る。
- ②現在市販されている各種粒子径分布測定装置のデータの相関性を把握する。
- ③微粒子領域と粗粒子領域をまたぐ粒子径分布について、微粒子側と粗粒子側のデータの間のつながぎを検討する。

5.10 規格委員会（遠藤茂寿委員長、松山達副委員長）

委員会開催予定:2回

- 1) 粉体工業技術に係わる国際・国内諸規格の調査、研究
- 2) 新規協会規格原案の審議及び規格案の理事会への提案、並びに協会規格の管理
- 3) 新規 JIS 原案作成の理事会への提案及び原案作成、並びに協会が作成した JIS の管理
- 4) ISO/TC 24 の国内審議団体としての国際標準化作業
- 5) ISO/TC 24/SC 4 の幹事国業務
- 6) ISO/TC 142 及び ISO/TC 146 における協会の関係する国際標準化作業
- 7) 協会が関与する諸規格の普及
- 8) 官公庁、協会関連団体への規格・標準化に係わる表彰候補の推薦審査

5.10.1 粒子特性委員会（桜井博委員長、伊串達夫副委員長）

平成28年度に引き続き、ISO/TC 24/SC 4におけるISO規格文書作成に取り組む。

- 1) ISO/TC 24/SC 4 国際会議へ日本代表団として出席し、国際規格作成に参画する。
・第52回国際会議(東京、平成29年5月29~30日)
・第53回国際会議(アメリカ・カリフォルニア州アーバイン、平成29年秋)
- 2) 定期見直しおよび各審議段階での投票に対し、各WG対応委員会を中心に審議し、投票する。
- 3) レーザ回折法、沈降法、粒子標準物質、気相計測法など、当小委員会が重点的に規格作成を進めている案件について、文書作成や新規提案を行う。
- 4) 遠藤委員が2015年1月から3年間担当しているSC国際幹事業務を支援する。

5.10.2 ふるい委員会（松山達委員長）

- 1) JIS Z 8801-1(試験用篩)改訂についての検討
- 2) ISO 2395「Test sieves and test sieving -Vocabulary」の改訂についての検討

5.10.3 集じん技術委員会（金岡千嘉男委員長、福井国博副委員長）

WG-A:休止中

WG-B(委員長井村):2016.9アトランタ会議で承認された Sampling and test method for cleanable filter media taken from filters of systems in operation “ろ布性能測定を目的とする稼働中集じんシステムからのろ布のサンプリング及び試験法”について、前年度に引き続き、確認のための実稼働集じん施設でのサンプリングと劣化評価を実施するとともに、規格原案を策定し、9月に開かれる TC142 パリ会議において論議する(PL:広

大・福井、金沢大・金岡)。なお、本国際規格は、基本的には、JIS Z 8910 を翻訳し国際規格とするものである。

WG-C(委員長杉野):ラウンドロビンテストを継続するとともに、その結果を組み込んだ ISO16313Part2 規格原案を策定する。

5.10.4 JIS 原案作成委員会

5.10.4-1 H29 年度 JIS 原案作成委員会1 (森康維委員長)

-JIS Z 8828 粒子径解析-動的光散乱法の改正-

委員会開催予定:本委員会3回、小委員会5回

ISO 22412 Particle size analysis -- Dynamic light scattering (DLS) の改正に伴い、対応する JIS Z 8828「粒子径解析-動的光散乱法」を改正する。この改正では、測定手法の進歩・拡張を含み、ISO13321 Particle size analysis -- Photon correlation spectroscopy の内容も包含した規格となっているため、対応する JIS 規格も改正する必要がある。なお ISO13321 は、ISO22412 に統合され、廃止となるため、ISO 13321 に対応する JIS Z 8826「粒子径解析-光子相関法」は、JIS Z 8828 に統合廃止とする予定である。

この測定方法の JIS 作成は、この原理に基づく信頼性の高い粒子径分布評価方法として使用され、ナノ粒子やサブミクロン微粉体製品の品質向上に寄与できることが期待できる。

5.10.4-2 H29 年度 JIS 原案作成委員会2 (金岡千嘉男委員長、福井国博副委員長)

-集じん用ろ布の劣化特性の試験方法の JIS 原案作成-

委員会開催予定:本委員会4回、分科会3回

JIS Z 8909-2「集じん用ろ布の試験方法-第2部:耐久性試験方法」および JIS Z 8909-3「集じん用ろ布の試験方法-第3部:耐熱性試験方法」をもとに国際規格を提案し、2016 年 1 月に ISO 16891 Test methods for evaluating degradation of characteristics of cleanable filter media として発行されたので、その JIS 原案を作成する。高温下で腐食性ガスによる集じん用ろ布の劣化特性を評価するための試験方法を規定したものである。ろ布性能の劣化特性が求められると、ろ布の寿命推定に利用できるので、現在経験的に行われているろ布交換を、合理的に行うことが出来るようになる。なお、JIS Z 8909-2 および JIS Z 8909-3 は、新しい JIS が制定された段階で廃止を予定している。

5.10.4-3 H29 年度 JIS 原案作成委員会3 (齋藤文良委員長)

-微小粒子の破壊及び変形強度の測定方法の JIS 原案作成-

委員会開催予定:本委員会3回、分科会1回

Li イオン電池活物質やトナー粒子などは数 μm の粉体(微小粒子集合体)から構成されている。これら製品は我が国が誇る先進材料であり、その分野はセラミックス、化粧品、医薬品、超硬材料など広範囲にわたっている。これら分野における粉体製造では、粉体の基本単位である微小粒子の圧縮変形破壊における強度を評価することが不可欠である。微小粒子の強度の評価規格として、JIS 規格、ISO 規格、ASTM 規格、日本薬局方などがあるが、既存規格の適用可能粒子径範囲は数 mm 以上であり、数 μm ~ 数十 μm という微小粒子径範囲には適用できない。

そこで、当該微小粒子径の強度評価に適合できる JIS 規格原案を作成し、規格制定することにより、我が国が誇る先進粉体材料製造分野の品質管理の信頼性向上と作業工程の迅速化が図られ、もって国際競争力向上につながるが大いに期待できる。

5.11. 粉じん爆発委員会 (土橋律委員長、山隈瑞樹、太田潔各副委員長)

委員会開催予定:3回

引き続き次の4点を実施してゆく。①安全教育、②規格の作成、③最新の規制・規格等動向把握、④行事等への対応、をおこなってゆく。

1) 安全教育

粉じん爆発・火災安全研修(初級および中級)の企画・運営

①粉じん爆発・火災安全研修【初級/基礎編】(毎年秋、関東関西交互に開催)の開催
平成 29 年秋に、(独)労働安全衛生総合研究所で開催予定。

②粉じん爆発・火災安全研修【中級/技術編】(2年ごとの春に関東で開催)の計画検討
平成 29 年度は開催しない年度であるが、次年度の計画を検討する。

③テキストの改訂検討

テキスト2冊(以下)は作成から時間が経ち、研修の内容にも変化があるため、初級および中級の講師の交代が終わった平成29年度から、新講師陣によるテキストの改訂を検討する。

－「粉じん爆発・火災対策」(2006年、オーム社)

－「実務者のための粉じん爆発・火災安全対策」(2009年、オーム社)

2) 規格の作成

粉じん爆発危険性評価の主要な3つの規格がJISとして揃った。

①可燃性粉じんの爆発圧力及び圧力上昇速度の測定方法 (JIS Z 8817)

②可燃性粉じんの爆発下限濃度測定方法 (JIS Z 8818)

③可燃性粉じん・空気混合気の最小着火エネルギー測定方法 (JIS Z 8834)

規格作成は一段落したところであるが、フォローを続ける。

新規作成必要事項については、③の動向把握で検討してゆく。

3) 最新の規制・規格等動向把握

①安全試験国際規格調査検討ワーキング・グループの設置

平成27年度にキックオフしたワーキング・グループで、粉じん爆発・火災にかかわる海外の安全試験規格を調査し、整理する作業を継続する。

②IEC/TC31 国内委員会への対応

本委員会より山隈副委員長が参加し、動向をフォローしてゆく。

③粉じん防爆構造規格のIEC規格への整合化

新たな工場電気設備防爆指針(国際整合技術指針)についてフォローを継続する。

4) 行事等への対応

①粉体工業展大阪2017における「粉じん爆発情報セミナー」の企画・開催

粉じん爆発安全に関するトピックスについての情報セミナーを実施予定。

5) その他

本年度は実施できなかったが、各工程を専門的に検討している分科会等との連携は有意義であり、今後とも機会があれば実施してゆく。

6. 分科会

6.1 粉体ハンドリング分科会

(松本幹治コーディネータ、松坂修二副コーディネータ、村上徹代表幹事、海老原裕之副代表幹事)

回	予定時期	予定場所	主テーマ
1	H29.7	千葉県	千葉共同サイロ(株)工場見学、技術講演 ※1
2	H29.9	関西地区	技術講演、製品紹介、懇親会
3	H29.11～12	関東地区	工場見学、技術講演、懇親会
4	H30.2～3	関東地区	技術講演、製品紹介、懇親会

※1) 分級ふるい分け分科会と合同開催

幹事会開催予定：4回(上記本会合に併せて、または必要に応じて開催)

中期活動テーマ

1)粉体ハンドリングをマテリアルハンドリングの範疇と捉え取り組みの範囲を拡大する。

2)最近の粉体ハンドリング産業の技術力の変遷を把握し、将来展望を見据えた基盤技術や解決困難な技術的課題を抽出し、研究や勉強の場を企画する。

3)「粉粒体ハンドリング技術」書籍の新規編集・発刊を実現する。

4)海外での分科会開催などグローバル催事を恒常化する。(海外でのテロ脅威・リスクを考慮し当面見合わせる)

今年度の事業計画の概要と運営方針

1)ニーズや技術的課題が十分に反映された分科会を計画・開催する。

2)「粉粒体ハンドリング技術」書籍発刊を完了する。

3)専門講座を企画立案する。(粉粒体ハンドリング技術書籍の活用)

4)粉体エンジニア早期養成講座粉体ハンドリングⅠⅡの講座再開の企画立案を行なう。

5)現代表幹事最終年度のため、後任代表幹事の選任と引継ぎを円滑に行なう。

6)コーディネータ交代にむけ、副コーディネータの選任を検討する。

6.2 粉砕分科会

(内藤牧男コーディネータ、加納純也副コーディネータ、海老原尚代表幹事、須長克行、藤本信司各副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	テーマ
1	H29.7/6~7	北海道	製粉会社と無機材料に関係する会社の見学、粉体プロセスの特色ある研究成果を誇る室蘭工大での施設見学と技術講演 3 題。
2	H29.2~3	徳島	新薬の製剤メーカーの工場見学と関連技術講演 2 題、そのほか、近隣の粉体関連製品製造工場の見学を予定。

幹事会開催予定:

5 回 (5 月-東京、7 月-北海道、10 月-名古屋、12 月-東京、2or3 月-徳島)

中期活動テーマ

- 1) 会員(メーカ、ユーザ)に有益な情報収集や発信を、強く意識して活動する。
- 2) 対象分野はエネルギーと素材であり、さらに安全を、もう一つのキーワードに加え、伝統の無機材料を基本に原薬関連を含めた有機材料をも視野に入れ、良好なバランスを図りながら、さらに深めていく。

今年度の事業計画の概要と運営方針

- 1) 本会合の開催は 2 回とし、それぞれ、見学会と関連講演会を開催する。
- 2) 養成講座のテキストをアップデートし、より実践的で充実した講座をめざす。
- 3) 日韓粉体シンポジウムは開催せず、他の諸外国を含めた国際交流の方針を検討する。
- 4) H29 年度中に精査した会員名簿をさらに充実させ、分科会情報の有機的な浸透を図る。

6.3 分級ふるい分け分科会

(吉田英人コーディネータ、秋山聡代表幹事、佐藤一彦副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	H29.7	千葉	穀物貯槽、輸送設備の見学(千葉協同サイロ㈱)
2	H29.11	広島	食品粉体製造設備の見学(㈱サタケ)
3	H30.2	未定	電子材料製造工場の見学

幹事会開催予定: 幹事会: 3 回 (上記本会合に併せて、または必要に応じて開催)

中期活動テーマ

- 1) 粉体材料の高機能化に向けた分離径制御および高精度化技術
- 2) 分級ふるい分けに関する標準化

今年度の事業計画の概要と運営方針

分科会本会合を 3 回開催する予定である。一般および高付加価値粉粒体の取扱い工場の見学と講演会を実施し、粉体材料の分離および粒子径調整技術の動向を調査する。また、ナノ粒子の分離・分級技術の調査とふるい分けに関する ISO 標準化の情報収集を行う。

6.4 乾燥分科会 (田門肇コーディネータ、立元雄治副コーディネータ、諏訪聡代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	H29.6.22	三重	化学関係の工場見学、講演会
2	H29.11	東京	乾燥技術、装置関連の講演会

幹事会開催予定: 幹事会: 2 回 (上記本会合に併せて、または必要に応じて開催)

中期活動テーマ

食品、医薬、化学、環境、バイオマス、廃棄物など毎年テーマを変えて工場見学会と講演会を実施する。あわせて海外の乾燥シンポジウムなどからの最新の乾燥技術・研究動向の報告講演会を開催し、国内への情報発信を継続実施していく。

今年度の事業計画の概要と運営方針

- 1) 第 1 回分科会: 化学関連の工場見学、講演会を計画
三重県川越町 チョダウテ株式会社(石膏の焼成、ボード製造設備の見学、講演会)
- 2) 第 2 回分科会: 新素材に関する乾燥技術、装置関連の講演会を予定。

6.5 集じん分科会 (金岡千嘉男コーディネータ、牧野尚夫副コーディネータ、杉野隆代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	H29.5.19	神戸製鋼神戸発電所	集じん装置の多機能化検討
2	H29.8	アマノ(株)細江事業所	最新の集じん装置生産現場の見学
3	H29.11	関西	(仮題) ユーザー視点の集じん機への期待
4	H30.2	関東	(仮題) バグフィルター試験方法の ISO 化

幹事会開催予定:

幹事会:3 回(上記本会合に併せて、または必要に応じて開催)

小グループ幹事会: エリア別(関東、中部、関西) 各 2 回

中期活動テーマ

平成 29 年度からの活動は、平成 28 年度より引き続き、小グループ活動を主とするが、幹事が増えた(総計:18 名)事により、改めてそのグループ分けの確認と役割を見直し、定期的な小グループ幹事会を開催するなど、分科会活動の一層の充実を図っていく。また規格委員会 ISO 対応委員会集じん技術小委員会において、バグフィルター試験法の ISO 化を引き続き進めるため、分科会として本活動を全面的に支援する。

今年度の事業計画の概要と運営方針

分科会活動は平成 28 年度より引き続き各地区別幹事が、一層連携して活動できる体制とし、集じん装置のユーザー満足度の向上や、新たなニーズ発掘、先端技術の提供等を目的に、年4回の分科会を計画する。教育活動においては粉体エンジニア早期養成講座の一層の充実を図る。

6.6 混合・成形分科会 (鈴木道隆コーディネータ、藤正督副コーディネータ、藤井淳代表幹事、菅原一博副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	H29.09.1	京都	西村陶業(株)工場見学 セラミック部品の各種成形方法

幹事会開催予定:

幹事会:3 回(8 月-京都、10~11 月、H30.3)

中期活動テーマ

混合・成形分科会では粉体の混合・混練・成形に係わる『温故知新』と『最新技術』をテーマに、工場見学会と講演会を計画。

今年度の事業計画の概要と運営方針

粉体混合・成形がキープロセスであるセラミックスの成形技術や製薬・製剤技術など、一連の粉体プロセスにおける今日的な課題、さらには『半湿潤状態』での成形や状態評価も視野に入れた活動(見学会、講演会)を行う。

6.7 造粒分科会 (村瀬和典コーディネータ、武井孝副コーディネータ、桑原敏之代表幹事、岩松英敏副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	H29.10	大阪地区	施設見学会
2	H30.3	未定	技術討論会

幹事会開催予定:6 回(5 月、他未定)

中期活動テーマ

平成 27 年度の年間テーマは「最近の造粒技術で“連続操作”をキーワードにした新技術」を中心に、実際に現在使用されている連続造粒システムの分析と、新しく要求されている連続造粒運転の仕様との差異を明確にし、これからの基本的造粒技術、特に連続式造粒システムの展望を検討する。年間テーマに従って例年通り、3 月に技術討論会/技術講演会を行い、また、同テーマに関わる造粒の現場に足を踏み入れて、現場の雰囲気を感じてみる施設見学会を本年度も実行した。

今までの年間テーマには、「機能性を付与する造粒技術」、「造粒技術の基本を見直す」「新しいエネルギーに関わる造粒技術」、「芸術文化に関わる造粒技術」、「健康・安全に関わる造粒技術」、「人間の五感に関わる造粒技術」等があった。28 年度以降は、会員が業務を行う上で取得したい情報を提供に少し軸足を置き、地道に開発を続けている造粒機器メーカーの新技術を洩れること無く、分析・紹介し、ユーザーニーズとそれに答えるメーカーの技術・開発の努力を有効に繋げてゆきたい。今後も造粒による有用な複合物質の創成アプリケーションと、様々な分野の「最新、ユニークな造粒技術、造粒装置」を紹介し、この分野の啓蒙を続けてゆく。

8 月に実施した実習付き講座を定期的に行ってほしいとの回答を多くの参加者から得られたことに応じていくため複数年に一度ではあるが、分科会としてこのような講座形式の分科会を開催検討する。

今年度の事業計画の概要と運営方針

年間テーマに従った「施設見学会」「技術討論会」を企画、運営を実施する予定。

6.8 計装測定分科会

(森康維コーディネータ、後藤邦彰副コーディネータ、鷲尾一裕代表幹事、阿川直樹、池田英幸各副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	H29.5	東京	ISO TC24/SC4 国際会議関連行事
2	H29.9	西日本	粉体関係施設の見学
3	H30.1	東京	第 37 回計装測定講演会

幹事会開催予定:3回(上記本会合に併せて開催)

中期活動テーマ

ナノ粒子計測を含む新しい粉体測定技術の探求と信頼性向上

今年度の事業計画の概要と運営方針

分科会は、見学会2回、講演会1回の合計3回の開催を目標とする。上記の中期テーマを継承し、粒子径分布やそれ以外の物性測定に注目する。粉体エンジニア早期養成講座は(株)島津製作所にて開催予定。標準粉体委員会との連携を強化する。さらに平成29年度も粉体工学会技術討論会への協力と、5月に日本で開催されるISO・TC24/SC4国際会議における協力も進める。

6.9 湿式プロセス分科会 (岩田政司コーディネータ、後藤邦彰副コーディネータ、石川敏代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	H29.7	兵庫	大学研究室の見学
2	H29.11	未定	製薬関係の工場見学

幹事会開催予定:2回(上記本会合に併せて、または必要に応じて開催)

中期活動テーマ

水処理分野から先端材料創成技術に至るまで、湿式処理プロセスが必要とされているあらゆる分野を分科会の活動対象とする。

今年度の事業計画の概要と運営方針

今後も、見学先には分科会と会員企業が対象とする技術分野や関心事項を伝え、より会員のニーズにマッチした見学内容の実現と、そのためのスケジュール調整に留意していきたい。

分科会の課題としては、次期副コーディネータの選出がある。今後の分科会には准教授クラスの先生方を積極的に招き、後藤先生の後任候補を検討する予定である。

6.10 輸送分科会

(田中敏嗣コーディネータ、武居昌宏副コーディネータ、井上照男代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	H29.6.2	愛知/ツカサ工業(株)	見学・講演
2	H29.10	未定	見学・講演
3	H30.3	未定	見学・講演

幹事会開催予定:5回(上記本会合に併せておよび必要に応じて開催)

中期活動テーマ

『輸送設備におけるシーズ、ニーズの探索』

今年度の事業計画の概要と運営方針

輸送の分野においては、近年、新たな研究・技術開発の進展に乏しく、従来からの技術の延長線上にあるのが現状である。この状況を打破するには、より新しいニーズ・シーズの発掘を行い、新たな展開の方向性を模索する必要がある。このような問題意識の下で、幹事会社を中心となり、幹事会を利用してニーズの探索を行う。また、分科会においては、新市場を中心として、年三回予定されている分科会の開催とそれに関わる新技術の講演、新製品紹介を企画できるように努めていきたい。分科会ごとにテーマを設けて関連性を持った企画運営を行う。

6.11 クリーン化分科会

(大谷吉生コーディネータ、鍵直樹副コーディネータ、宇治勝幸代表幹事、林敏昭、松田朋信各副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	H29.7	つくば/産総研	粒子計測研究室の見学と講演
2	H.29.9	関東	食品製造環境のクリーン化

幹事会開催予定:3回(上記本会合に併せておよび必要に応じて開催)

中期活動テーマ

クリーン化分科会として、今まで半導体、液晶(FPD)、医薬品等のクリーン化技術について主に取り組んできたが、今後は機械、食品などの産業分野、あるいは民生用の一般家庭、人体を対象にしたクリーン化技術にまで幅を広げ行く。

今年度の事業計画の概要と運営方針

分科会として医薬品、食品関係の工場見学会と講演会を計画して行く。また、他学会との技術交流のため共催シンポジウムを計画したい。

6.12 環境エネルギー・流動化分科会

(幡野博之コーディネータ、成瀬一郎副コーディネータ、高田真木代表幹事、高島久継副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	H29.4.7	三重	木質バイオマス発電 CFB ボイラ見学会
2	H29.9	東京	講演会予定
3	H29.11	未定	見学会予定

幹事会開催予定:

分科会や分科会連絡会議と同時に幹事打合せを実施予定のため現状幹事会等の予定はない。

中期活動テーマ

震災と原発事故、再生可能エネルギーの固定価格買取制度の実施など、環境エネルギーに関する課題は山積である。しかし実効のある技術や制度は、いまだコストや法制度の壁により有効に作用していない。環境エネルギー・流動化分科会ではこれらの課題に幅広く対応してゆく。

今年度の事業計画の概要と運営方針

流動層をキーワードに、再生可能エネルギー(特に木質バイオマスや廃棄物系バイオマス)利用の最新技術について、見学会や講演会を開催し、その有効性や制度面での課題を抽出する。

6.13 晶析分科会

(白川善幸コーディネータ、松本真和副コーディネータ、津崎裕也代表幹事、大森一成副代表幹事)

回	予定時期	予定地域	主テーマ
1	H29.4~8		他分科会との共催。
2	H29.10~12	千葉	専門講座
3	H30.2~3	神奈川	味の素(株) 川崎工場見学

幹事会・小委員会開催予定:

幹事会 6回(上記本会合に併せておよび必要に応じて開催-4,6,8,10,12、H30.2月)

中期活動テーマ

会員を中心として非会員も含め、幅広いメンバーにアンケートを行い、その結果に基づいて、中期活動テーマを幹事会で検討している。

日本の晶析技術は最先端であり、引き続き、他分科会とも連携して日独フォーラム(フランクフルト)に企画協力する。技術的には、晶析装置設計理論と晶析に関する最新情報について焦点を当てる。また、技術継承を目的として専門講座(または早期育成講座)を継続的(隔年)に開催する。専門講座は時間が限られているので、受講生のアンケートからは、より丁寧に説明して欲しいとの要望が多い。そこで、非開催年にはフォローアップを計画している。平成 28,29 年度は従来の単独開催の他、他学会内の晶析研究グループとの協力により数件の合同開催も企画する。晶析の分野では化学工学会、海水学会を始め、多くの研究グループがあり、その連携・日程調整が望まれている。当分科会も連携に協力する考えである。連携には共催、協賛などの形態が含まれている。

今年度の事業計画の概要と運営方針

- ・工場見学と講演を組み合わせた分科会の開催。
- ・他分科会との共催を企画
- ・専門講座の企画

6.14 微粒子ナノテクノロジー分科会

(神谷秀博コーディネータ、宮原稔副コーディネータ、福井武久代表幹事、中村圭太郎、鳥居経芳各副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	H29.7	未定	微粒子・ナノ材料の利用技術の発信 (晶析分科会との合同開催を予定)
2	H29.11	海外(中国)	微粒子・ナノ材料関連研究開発の海外調査
3	H30.2	未定	微粒子・ナノ材料の利用技術の発信

幹事会開催予定:5回(4月-大阪、7月-東京、11月-海外、H30.2月-名古屋)

中期活動テーマ

微粒子ナノテクノロジーの最新技術、ナノ材料の製造、利用およびリスク管理について、海外を含めてバランス良く情報を収集するとともに会員企業に向けた発信・啓発を行う。特に、微粒子・ナノ材料を如何に活用していくか、有効利用を念頭に、基礎・評価技術、利用技術および産業応用につながる会員企業にとつ

て有効な情報発信に重点を置き活動を進める。また、協会・ナノ粒子利用技術委員会の活動を中核分科会として支えていき、委員会の成果を分科会活動へと反映していく。

今年度の事業計画の概要と運営方針

- ・引き続き、微粒子・ナノ材料の有効利用に役立つテーマについての講演会と見学会を企画開催し、会員への最新技術情報の発信及び啓発を進める。
- ・協会の重点目標『ナノ粒子への対応技術とナノ粒子利用技術の検討』を目指し、ナノ粒子利用技術委員会の成果を反映させた分科会テーマの検討、企画を進める。
- ・海外の技術情報発信を目指した、海外分科会開催を検討する。

6.15 電池製造技術分科会

(境哲男コーディネータ、堤敦司副コーディネータ、秋元祐代表幹事、佐藤高公、中村岳幸各副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	H29.6.30	東京/東京大学	次世代電池技術
2	H29.10	山口	電池の安全性向上技術
3	H30.2	尼崎?	電池の高容量化技術

幹事会開催予定:3回(上記本会合に併せて開催)

中期活動テーマ

次世代自動車やエネルギー貯蔵システムにおいて大きな貢献が期待される、電池、燃料電池、キャパシタなどの電池技術の抱える諸課題、たとえば、安全性や耐熱性、長寿命化、低コスト化、高容量化、高出力化などのブレイクスルーを図るべく、電池技術と材料技術、粉体技術を融合する場を提供し、わが国の産業競争力の強化に貢献する。

今年度の事業計画の概要と運営方針

世界的にEV開発、商品化競争が本格化し、EVの走行距離を従来の2倍以上に伸ばすために、電池の高容量化や搭載電池の大型化が活発に進められている。また、電池の安全性を担保するために、セパレータや電極表面へのセラミックコート技術や、固体電解質の利用なども進められており、材料技術と粉体技術の連携がますます重要になっている。グローバルに急成長する電池産業の多様な要望に対して、迅速に対応できる機動的な連携体制の構築が求められており、これを支援できるような分科会活動を推進する。

6.16 リサイクル技術分科会

(大矢 仁史コーディネータ、外川健一副コーディネータ、荻田哲也代表幹事、増井芽、齊藤陽各副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	H29.6	北九州	貴金属のリサイクル ～再生材料での金メダル
2	H29.10	熊本	震災廃棄物の処理、リサイクル
3	H30.1	未定	CFRPのリサイクルに関して

幹事会開催予定:4回(上記本会合に併せておよび必要に応じて開催)

中期活動テーマ

「持続可能社会」「自然共生社会」「安全・安心社会」「高齢化社会」を基本的に見つめ、現実として震災復興、エネルギー問題に対して具体的に「リサイクル技術」がどう貢献できるかを見いだしていく。

今年度の事業計画の概要と運営方針

第1回分科会では、来る東京オリンピックにも使用される「金メダルを再生材料」で製作するという新たなリサイクルビジネスを視察する。第2回分科会では、現在もなお未解決の熊本震災における「廃棄物処理」の現状を現地に乗り込み視察する。第3回分科会では、近い将来必ずや社会問題となりうるだろう「CFRPのリサイクル」に関して、講演そして可能であれば見学会を開催したい。

6.17 食品粉体技術分科会

(羽倉義雄コーディネータ、五月女格副コーディネータ、野村光生代表幹事、川島哲文副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	H29.5~7	愛知	単位操作技術「集じん」
2	H29.9~10	千葉	単位操作技術「食品製造環境(クリーンルーム)」
3	H30.1~3	未定	単位操作技術「混合・造粒・コーティング」(仮)

幹事会開催予定:3回(上記本会合に併せて開催)

中期活動テーマ

食品製造の基本となる『安全・安心』をメインテーマに、引き続き『新たな調理・生産方式』、『最先端の生産技

術』、『食品の衛生管理』、『食品廃棄とリサイクル』などもテーマに活動したいと考えている。

今年度の事業計画の概要と運営方針

中期活動テーマに沿って、食品工場の見学の他講演会や他分科会との共同開催などを通じ、食品に関わる新しい情報、技術を習得できる活動を行う。また、単位操作技術についての「基礎」と「最新動向」など食品メーカーに有意義な場を提供していきたいと考えている。なお、本分科会のテーマは食品に関わる重要技術を取扱っているため、協会のみでなく食品関連他団体とも連携して幅広く参加者を勧誘していく。

6.18 粒子加工技術分科会

(福森義信コーディネータ、竹内洋文副コーディネータ、吉田泰三代表幹事、伊藤有一、浅井直親各副代表幹事)

回	予定時期	予定地区	主テーマ
1	H29.6.16	焼津市	アステラス製薬(株)見学講演会
2	H29.9.8	富山市	(株)広貫堂 見学講演会
3	H30.2月	岸和田市	全星薬品工業(株) 見学講演会

幹事会開催予定:4回(上記本会合に併せておよび必要に応じて開催)

中期活動テーマ

製剤における粒子加工技術の向上

今年度の事業計画の概要と運営方針

- ・粒子加工技術の関連企業での見学会及び製剤などに関する講演会・・・年3回
- ・製剤と粒子設計シンポジウムを粉体工学会の部会とともに共催し、協力を続ける・・・年1回
- ・粉体エンジニア早期養成講座開講・・・年1回

6.19 粉体シミュレーション技術利用分科会

(酒井幹夫コーディネータ、石神徹副コーディネータ、角家強志代表幹事、小澤和三副代表幹事)

分科会開催予定;分科会2回、幹事会開催予定:3回

中期活動テーマ

粉体を中心としたシミュレーション技術を駆使して、粉体機器あるいはシステムなどを設計する。また、機器あるいはプロセスの可視化などを通じて現象を把握することで改良・改善につなげる。このように、シミュレーション技術を利用して、機器開発・改善あるいはシステム開発・改善などを迅速かつ効率的に進めることで、産業界に貢献する。

7. 粉体工業技術センター (山田幸良センター長、豊見昭副センター長)

7.1 教育部門 (牧野尚夫マネジャー、大川原正明、松坂修二各副マネジャー)

委員会開催予定:本委員会1回、小委員会1回

平成29年度は、平成28年度と同様、粉体入門セミナー、粉体エンジニア早期養成講座などを中心に下表のような講座を実施する。専門講座については、あくまでも可能性が有りそうなものとしてではあるが、平成28年度と同様の2件が提案されており、分科会の活動状況から考え、あと2件程度の提案を要請したいと考えている。

入門セミナー等のアンケートで不満が出された案件のうち、会場の設備に対する不満など明らかな課題には着実に対応して行くが、講義が難しいなどの指摘については、講座が要求しているレベルと本人の知識レベルが異なっていることも原因の一つと考えられるので、より適切なレベルの参加者が集められるように、一昨年度作成し、昨年度改訂した講座レベルが分かり易い体系図入りの案内用パンフレットをさらに検討し、参加者が簡単に講義レベルを判断できるようにしていく。

アドホックセミナー、経営講座、特別講座については、良い案が出された時点で臨機応変に対応して行く予定である。

平成29年度開催予定講座

講座名とタイトル	開催日	開催場所
粉体入門セミナー(Ⅰ)(第50回)	H29.6.13～ 6.14	東京/UDX GALLERY NEXT-2
粉体入門セミナー(Ⅱ)(第51回)	H29.6.29～ 6.30	東京/UDX GALLERY NEXT-2
粉体入門セミナー(Ⅲ)(第52回)	H29.7.20～ 7.21	東京/UDX GALLERY NEXT-2

粉体エンジニア早期養成講座	第1回 粉体工学基礎論	H29.7.6～7.7	大阪/塩野義製薬(株) 摂津工場
	第2回 計測・測定	H29.8.22～8.23	京都/(株)島津製作所 三条工場 グローバルアプリケーションセンター
	第3回 分級	H29.9.21～9.22	大阪/関西金網(株) 本社
	第4回 粉砕	H29.10.26～10.27	愛知/ツカサ工業(株)
	第5回 粒子加工	H29.11.21～11.22	大阪/(株)ダルトン 大阪イノベーションプラザ
	第6回 集じん	H29.12.5～12.6	浜松/アクトシティ浜松・(株)環境衛生研究所
	第7回 混合・混練	H29.12.14～12.15	千葉/太平洋機工(株)
	第8回 乾燥	H30.1.23～1.24	静岡/(株)大川原製作所 技術センター
	第9回 ろ過	H30.2.1～2.2	大阪/関西金網(株) 本社
第66回粉体技術専門講座(輸送)	未定	未定	
第67回粉体技術専門講座(粉体ハンドリング)	未定	未定	
粉じん爆発・火災安全研修[初級・基礎編]	H29.9月頃	東京/労働安全衛生総合研究所	

※粉体エンジニア早期養成講座

粉体ハンドリングⅠ(輸送・供給)と粉体ハンドリングⅡ(貯槽・プラント)は講座内容見直しのため、H29年度は休講。H30年開催を目指す。

7.2 製造事業部門 (豊見昭マネジャー)

委員会開催予定:本委員会はない、但し月例会議/報告会を開催する。

- 1) 現在、APPIEの標準粉体の主力製品はJIS試験用粉体1(摩耗試験、耐久試験、除じん試験、集じん性能試験用)であり、全販売量の約80%を占めている。一方、MBP、FSTP(計測器検定用)、電気・電子砂じん及びSAP試験用粉体は全販売量の約4%でありほぼ前年と同じ比率で、売上が低迷している。これらをどうするかは、標準粉体委員会の技術的判断を仰ぎながら対応していく。
- 2) 客先からの問合せを見ると、下記内容が多く、このことは売上傾向からも伺える。丁寧な対応により、受注に繋げていく。
 - a) 家電業界よりの粉じん試験に使用する粉体の需要の減少。
 - b) 自動車関連業界からのJIS試験用粉体1、特に関東ローム、けい砂及びISO規格のACダストの売上増加傾向
 - c) 化管法の施行によりSDSの危険有害性情報の発がん、呼吸器の障害等の問合せ及び廃棄
- 3) 海外からの引合増加の対応:infoへの情報を共有化し、引合対応の迅速化に注力する。

(単位:千円)

	29年度予算
売上(千円)	95,000
(売上前年度予算比%)	102.4
事業費(支出)	67,915
収支差	27,085
(収支差前年度予算比%)	100.8

7.3 産学技術交流推進部門 (後藤邦彰マネジャー、菅原一博副マネジャー)

委員会開催予定:3回

1) 技術相談

引き続き、HPからの申込みHP上の技術相談ページをわかりやすく変更。講演会、セミナーでDM配布をする。技術相談申込み数20件、技術相談に発展10件をめざす。

2) APPIE産学官連携フェア2017開催に向けて準備。

当日アンケートや6ヶ月後の追跡アンケート(参考資料)、2015の反省を踏まえて検討。

講座名	開催日	講演場所	参加者数
APPIE 産学官連携フェア 2017	H29.10.12	大阪/インテックス大阪	150

3) テクノカフェについて

講座名	開催日	講演場所	参加者数
第9回テクノカフェ	H30.3月	京都/ホテルセントノーム京都	20

※APPIE 産学官連携フェアが開催される年は1回開催。

4) 粉体技術セミナー

ベストシーズ講演会;隔年開催のため、H29年度は開催なし。

8. 技術情報交流懇話会

8.1 火曜会: 東京にて4回開催する。

4月11日、7月11日、10月3日、H30.1月16日

8.2 水曜会: 名古屋にて3回開催する。

6月28日、10月18日、H30.2月14日

8.3 木曜会: 大阪にて4回開催する。

5月11日、9月7日、12月7日、H30.3月1日

8.4 金曜会: 福岡にて3回開催する。

7月21日、10月27日、H30.3月1日

9. 共催・協賛及び後援行事

9.1 共催

(H29.4.1~H30.3.31 確定分)

行事名	開催日	開催場所	主催団体
第52回技術討論会	H29.6.20~ 6.21	横浜/横浜国立大学	粉体工学会
第34回エアロゾル科学・技術研究討論会	H29.8.3 ~8.4	東京/芝浦工業大学	日本エアロゾル学会

9.2 協賛

行事名	開催日	開催場所	主催団体
TECHNO-FRONTIER 2017	H29.4.19 ~4.21	千葉/幕張メッセ	(一社)日本能率協会
第34回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会	H29.4.25 ~4.26	東京/早稲田大学	(公社)日本空気清浄協会
界面コロイドラーニング-第33回現代コロイド・界面化学基礎講座-	H29.5.18 ~5.19 H29.6.15 ~6.16	東京/化学会館 大阪/ドーンセンター	(公社)日本化学会コロイド界面化学部会
色材セミナー	H29.5.25	大阪/ドーンセンター	(一社)色材協会関西支部
日本エネルギー学会[リサイクル・バイオマス・ガス化]三部会(RGB)シンポジウム	H29.6.12	東京/全国家電会館	(一社)日本エネルギー学会
FOOMA JAPAN 2017	H29.6.13 ~6.16	東京/東京ビッグサイト	(一社)日本食品機械工業会
先端技術を支える単位操作シリーズ	H29.6.14	大阪/大阪科学技術センター	(公社)化学工学会関西支部
2017 農業食料工学会シンポジウムフードテクノロジー(フーテック)フォーラム	H29.6.16	東京/東京ビッグサイト	農業食料工学会
革新型蓄電池「エネルギー有効利用の基盤技術~蓄電池技術の最新動向」	H29.6.20	大阪/大阪科学技術センター	(公社)化学工学会関西支部
第1回講演会	H29.7.7	東京/日本ペイントホールディングス(株)	日本塗装技術協会

色材分散講座	H29.7.13	大阪/大阪科学技術センター	(一社)色材協会 関西支部
第 15 回技術講演会	H29.7.19 ～7.20	東京/品川インターシティホール	新製剤技術とエンジニアリングを 考える会
粒子・流体プロセス技術コース 2017	H29.8.24 ～8.25	東京/中央大学後楽園キャンパス	(公社)化学工学会粒子・流体 プロセス部会流動層分科会
IFPEX2017	H29.9.13 ～9.15	東京/東京ビッグサイト	(一社)日本フルードパワー工 業会

9.3 後援

行事名	開催日	開催場所	主催団体
平成 29 年度 産総研 エネルギー・環境 シンポジウム	H29.9.8	東京/機械振興会館ホール	(国研)産業技術総合研究所

10. 刊行物

10.1 「粉体技術」

編 集 (一社)日本粉体工業技術協会 「粉体技術」編集委員会
 発 行 (一社)日本粉体工業技術協会
 月刊誌 (1,500 円・税別) (A4 版 約 100 ページ 約 1,500 部/月)

10.2 日本粉体工業技術協会 事業案内(和文 2017 年度版) A4 版 11 ページ
 編集/発行所:(一社)日本粉体工業技術協会
 発行:平成 29 年 5 月(700 部)

10.3 APPIE annual Report 2016 A4版 8 ページ
 編集/発行所:(一社)日本粉体工業技術協会
 発行:500 部

10.4 日本粉体工業技術協会開催の各種セミナー・講習会と教育部門の講座用テキスト
 編集/発行所(一社)日本粉体工業技術協会 教育部門他
 発行:各 50～100 部

10.5 APPIE 産学官連携フェア 2017 シーズ集
 編集/発行所:一般社団法人日本粉体工業技術協会 APPIE 産学官連携フェア実行委員会
 発行:平成 28 年 10 月 12 日